

## 医学部アセスメント・ポリシー

### (目的)

・医学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された教育目標の達成度を評価し、それに基づき目標への到達度をより高めるために、教学アセスメントを実施する。

### (実施体制)

- ・医学部の教学アセスメントの実施責任者は、学部長とする。
- ・医学部の教学アセスメントは、医学部教務委員会において実施する。

### (実施及び分析)

- ・医学部の教学アセスメントは、別に定めるアセスメント・チェックリストにより実施する。
- ・医学部の教学アセスメントの総合評価は、毎年実施する。
- ・評価結果を参考とした教育改革の内容については積極的に公表する。
- ・評価で用いたデータの取り扱いについては、本学の関係規程等を遵守し、個人情報保護につとめる。

医学部医学科 アセスメント・チェックリスト

医学部医学科の学位授与水準 (DP)

DP1	・医療実践に必要な医学・医療の知識を修得している。(知識)
DP2	・社会人と医療人に求められる豊かな知識と教養を有している。(知識)
DP3	・地域と国際社会で求められる保健・医療・福祉を理解している。(知識)
DP4	・患者の身体的、ならびに社会心理的状況を科学的、統合的に評価し、全人的医療を実践できる。(技能)
DP5	・医学・医療の国際化に対応できる「語学力」「自己表現力」「多文化理解力」を有している。(技能)
DP6	・医療チームに必要な「コミュニケーション力」「リーダーシップ」「協調性」を理解し、多職種連携によるチーム医療に参加することができる。(技能)
DP7	・豊かな人間性と高い倫理観を持って行動できる。(態度)
DP8	・科学的根拠に基づいて考え、判断することができる。(態度)
DP9	・地域医療の実践に必要な使命感と責任感を有している。(態度)
DP10	・生涯を通して自らを高めていく態度と医科学の進歩を追求する研究心を持っている。(態度)

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容、質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者	
1	成績評価 (進級判定)	3月	毎年	2年生	教養教育、初期医学教育にかかる学生の習熟度の確認を行う。	進級判定時に点検する	医学科教務委員会	第3学年への進級を判定するとともに、教務委員による履修指導等に活用する。	医学部医学科	DP1～3、DP7～9
2	成績評価 (進級判定)	8月	毎年	3年生	基礎医学教育、社会医学教育にかかる学生の習熟度の確認を行う。	進級判定時に点検する	医学科教務委員会	第3学年後期のチュートリアル教育、研究室研修への進級を判定するとともに、教務委員による履修指導等に活用する。	医学部医学科	DP1～3、DP7～9
3	成績評価 (進級判定)	12月	毎年	4年生	チュートリアル教育、研究室研修、基本的臨床技能教育にかかる学生の習熟度の確認を行う。	進級判定時に点検する	医学科教務委員会	第4学年後半から開始する臨床実習への進級を判定するとともに、教務委員による履修指導等に活用する。	医学部医学科	DP1～10
4	CBT (Computer Based Test)	11～12月	毎年	4年生	臨床実習前に学生の知識を評価する「共用試験実施評価機構」による全国共通の試験	コンピューターを用いた全国共通試験	医療系大学間共用試験実施評価機構	臨床実習前に学生の知識の習熟度を評価し、国家試験合格率上昇に向けた検討材料とする。なお、不合格者は、附属病院等での臨床実習を行うことができない。	医学部医学科	DP1～3

医学部医学科 アセスメント・チェックリスト

5	OSCE (Objective Structured Clinical Examination)	11～12月	毎年	4年生	臨床実習前に学生の技能及び態度が一定の基準に到達しているかを客観的に評価する「共用試験実施評価機構」による全国共通の試験	臨床実習を行う臨床能力を身につけているかを試す実技試験	医療系大学間共用試験実施評価機構	学生の技能や態度にかかる臨床実習前教育の改善・充実に活用する。なお、不合格者は、附属病院等での臨床実習を行うことができない。	医学部医学科	DP1～3、DP7～9
6	成績評価（進級判定）	3月	毎年	5年生	各診療科ローテーションによる臨床実習にかかる学生の習熟度の確認を行う。	進級判定時に点検する	医学科教務委員会	第6学年の選択型臨床実習への進級を判定するとともに、教務委員による履修指導等に活用する。	医学部医学科	DP4～9
7	PCC (Post Clinical Clerkship) -OSCE (Objective Structured Clinical Examination)	8～9月	毎年	6年生	医学部卒業後の研修医として、医療面接を含めた基本的診療手技、鑑別診断ができるかについて評価する。 (2020年度より、「共用試験実施評価機構」により正式実施される全国共通の試験)	卒業後、医師として臨床業務を行う能力を有しているかを試す実技試験	医学部	医学部卒業後の研修医として、医療面接を含めた基本的診療手技、鑑別診断が実施可能となるよう、臨床実習の改善・充実に活用する。また、2020年度以降、不合格者については、卒業試験の受験資格を失う。	医学部医学科	DP4～9
8	成績評価	8～9月	毎年	6年生	第6学年に実施する選択型臨床実習にかかる学生の習熟度のチェックを行う。	進級判定時に点検する	医学科教務委員会	卒業試験の受験資格を判定するとともに、教務委員による履修指導等に活用する。	医学部医学科	DP4～9
9	成績評価（卒業判定）	1月	毎年	6年生	学生の知識が医学科卒業レベルにあるかのチェックを行う。	卒業判定時に点検する	医学科教務委員会	卒業判定を行い、卒業不可者に対する履修指導等に活用する。	医学部医学科	DP1～3
10	医師国家試験	2月	毎年	6年生	医師免許を取得するための国家試験	医師国家試験の結果に基づき点検する	医学部	医師国家試験結果に基づき、学生への学習指導の見直しや教育プログラムの見直しを検討する。	医学部医学科	DP1～3
11	カリキュラム委員会	随時	年に2～3回	教育全体	・医学部の使命、教育目標、教育カリキュラム、成績評価等に関する事項	討論	カリキュラム委員会	カリキュラム委員会の提言に基づき、カリキュラム改革等を検討する。	医学部	DP1～10

医学部医学科 アセスメント・チェックリスト

12	カリキュラム管理委員会	随時	年に1~2回	教育全体	医学科の教育目標、カリキュラム構成及び評価の在り方等に関する事項について、包括的に評価・検討を実施する。	討論	カリキュラム管理委員会	カリキュラム管理委員会の提言に基づき、カリキュラム改革等を検討する。	医学部	DP1~10
13	学びの振り返り/授業改善のためのアンケート	7月、1月	毎年	1~6年生	・授業の満足度 ・授業の理解度 ・学習状況	Web	学生	結果を学内に公表し、教員に教育方法改善の指針を与える。	地域人材教育開発機構	DP1~10
14	修学達成度評価「4つの力に関するアンケート」	4月（新入生のみ）、1月	毎年	1~6年生	本学の教育目標である「4つの力」の達成度	質問紙	学生	教育目標となっている学生の「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」の4つの力に対する「学生の自己認識」の現状を把握し、今後の三重大における高等教育展開のための基礎資料とする。	地域人材教育開発機構	DP1~10
15	・卒業生・修了生・事業所への調査	随時	3年に1回	卒業生、卒業生の就職先	・医学科カリキュラム、大学教育の有用性、現在の状況、企業等からのアドバイスなど	質問紙	卒業生、就職先の事業所担当者	結果を教職員に開示し、専門科目にかかるカリキュラム改革の検討材料とする。	地域人材教育開発機構	DP1~10
16	総合評価	4月	毎年度	前年度の教学アセスメント全体	・前年度に実施した教学アセスメントの評価及び改善点等の抽出	討論	医学部教務委員会	年間の教学アセスメントとその成果を総括し、PDCAサイクルを回すことにより、教育活動の活性化を図る。	医学部	DP1~10

## 医学部看護学科 アセスメント・チェックリスト

## 医学部看護学科の学位授与水準 (DP)

DP1	人々がより健康にその人らしく生きるために、看護職として人の尊厳と生命を尊重して行動することができる。
DP2	看護学の観点から人間を総合的に理解し、良質で安全な看護を実践するための基本的知識と技能を身につけている。
DP3	科学的根拠を踏まえて看護に関する課題を発見し、論理的・批判的思考により課題を解決することができる。
DP4	人々との相互関係を成立・発展させるために、豊かな感性を備えたコミュニケーション能力を身につけ、対話や討論の場において発揮することができる。
DP5	保健医療福祉システムの中で看護の専門性を発揮し、多職種連携における役割を担うための基盤となるリーダーシップ・フォロワーシップを身につけている。
DP6	国際社会や地域社会における健康問題や社会の変化などの動向を視野に入れながら、看護に求められる役割を見出すことができる。
DP7	看護の課題を探究し、看護学の発展につながる研究的態度を身につけている。
DP8	専門職として看護の質の向上を常に目指し、自己評価と他者評価をもとに看護実践を省察し、自律的に生涯学び続けようとする態度を身につけている。

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容、質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者	
1	講義科目の履修状況確認	随時	毎年	1～4年生	・講義科目の履修状況を確認する。	出席及び学修状況の確認、情報の共有	科目担当教員、クラス担任、看護学科教務委員会委員	・欠席が複数回続いた学生に対して、欠席理由と現状を確認の上、指導を行う。 ・看護学科教務委員会にて情報を共有し、指導に活用する。	医学部看護学科	DP1～7
2	実習科目の履修状況確認	随時	毎年	1～4年生	・実習科目の履修状況を確認する。	出席及び学修状況の確認、情報の共有	科目担当教員、クラス担任、臨地実習委員会委員	・欠席があった学生に対して、欠席理由と現状を確認の上、指導を行う。 ・臨地実習委員会及び看護学科教務委員会にて情報を共有し、指導に活用する。	医学部看護学科	DP1～8
3	進級判定	3月	毎年	2年生	・2年次から3年次へ進級するために条件を満たしているかを判定する。	関係規程に基づき実施する。	医学部教授会	・進級「否」となった学生及び仮進級の学生について、学修支援を行う。	医学部看護学科	DP2, DP3
4	国家試験合格者の検証	3月	毎年	4年生	・国家試験の結果を調査する。	悉皆調査	学生委員会	・ゼミ担当教員が不合格者へ、進路に併せた指導を行う。 ・分析結果を次年度の国家試験対策に活用する。	医学部看護学科	DP2, DP3, DP6
5	学びの振り返り/授業改善のためのアンケート	7月、1月	毎年	1～4年生	・授業の満足度 ・授業の理解度 ・学習状況	Web	学生	・結果を学内に公表し、教員に教育方法改善の指針を与える。	地域人材教育開発機構	DP1～8
6	修学達成度評価「4つの力に関するアンケート」	4月（新入生のみ1月）	毎年	1～4年生	・本学の教育目標である「4つの力」の達成度	質問紙	学生	・教育目標となっている学生の「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」の4つの力に対する「学生の自己認識」の現状を把握し、今後の本学における高等教育展開のための基礎資料とする。	地域人材教育開発機構	DP1～8
7	卒業生・修了生・事業所への調査	随時	3年に1度	卒業生、卒業生の就職先	・看護学科カリキュラム、大学教育の有用性、現在の状況、企業等からのアドバイスなど	質問紙	卒業生、就職先の事業所担当者	・結果を教職員に公表し、専門科目にかかるカリキュラム改革の検討材料とする。	地域人材教育開発機構	DP1～8
8	カリキュラム点検	随時	数年に1度	カリキュラム	・指定規則に則したカリキュラムになっているかの検証を行う。 ・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検を行う。	ワーキンググループによる検証	看護学科教務委員会	・指定規則に改正があった場合、或いはDPとカリキュラムのバランスが悪い場合には、いずれか、或いは両方を改正する。	医学部看護学科	DP1～8
	総合評価	4月	毎年	前年度の教学アセスメント全体	・前年度に実施した教学アセスメント	医学部教務委員会にて協議する。	医学部教務委員会	年間の教学アセスメントとその成果を総括する	医学部	DP1～8